

東日本大震災復興支援  
第67回国民体育大会 バスケットボール競技

MATCH No. 1C1

開催場所: 飛騨高山ビッグアリーナ  
試合区分: 成年男子3回戦  
開催期日: 2012年10月1日 (月)  
開始時間: 10:00

主審: 飯尾 勝紀  
副審: 大久保 好純



Team A	●	18 -1st- 13 11 -2nd- 16 10 -3rd- 34 18 -4th- 14	○	Team B
北海道	57	77		千葉

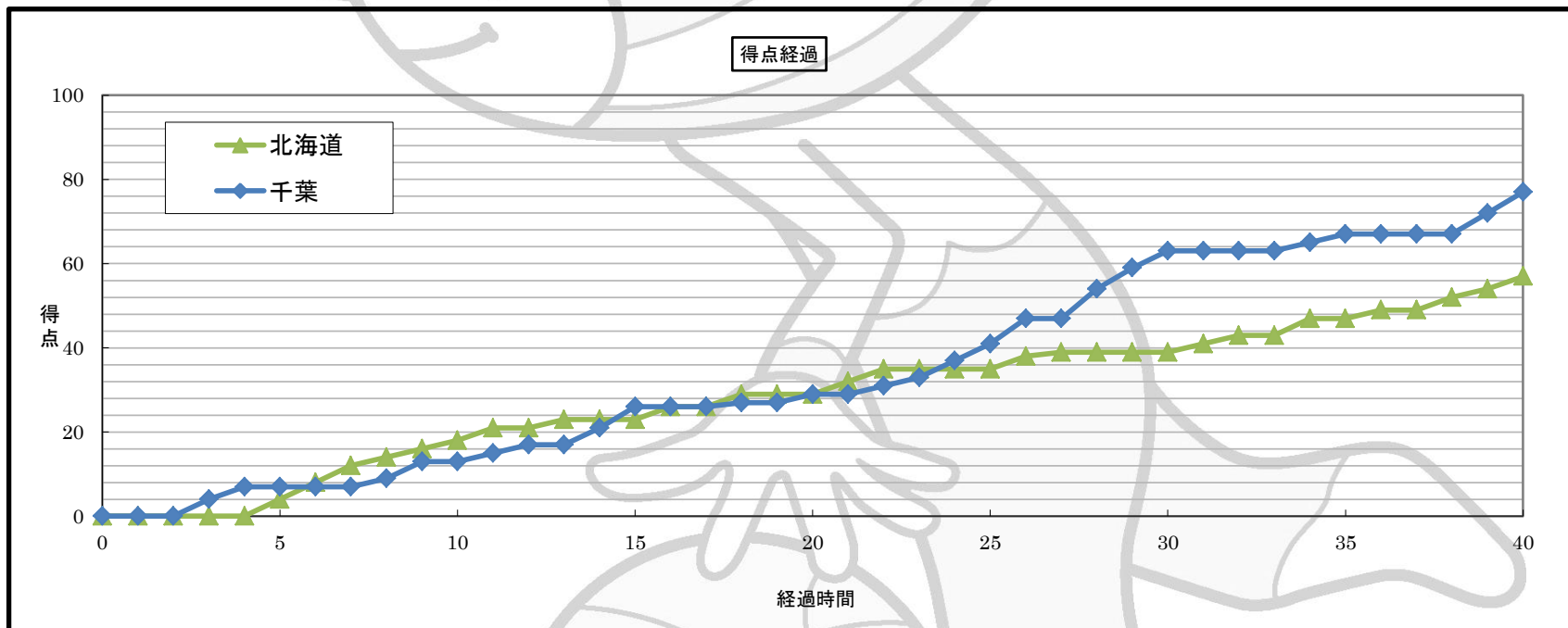
TEAM A		北海道							
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	R	A
4		志水 一希	5	1	1	0	1	2	1
5	*	下澤 義弘(C)	11	3	1	0	3	1	1
6		小西 秀明	7	0	3	1	5	5	1
7		久米 翔哉	10	2	2	0	1	1	0
8		安達 健文	2	0	0	2	3	1	1
9	*	小辻 一輝	4	0	2	0	2	0	3
10		永井 康光	0	0	0	0	2	1	1
11		石原 英刀	2	0	1	0	1	4	0
12	*	栃本 貴洋	8	0	4	0	4	14	1
13	*	山口 大輔	8	2	1	0	4	5	1
14	*	高野 直樹	0	0	0	0	0	0	0
Coach		佐久本 智					0		
TOTAL			57	8	15	3	26	34	10

TEAM B		千葉							
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	R	A
4		上村 健太	6	0	2	2	1	4	2
5		伊藤 恭平	4	0	1	2	3	4	3
6		井上 知徳	12	1	4	1	1	3	0
7	*	黒田 裕	17	0	5	7	1	16	0
8	*	高木 賢伸	4	0	2	0	2	3	2
9		子安 大輔	6	0	3	0	2	2	1
10		梶原 剛	3	0	1	1	2	2	0
11	*	秋元 啓人(C)	1	0	0	1	0	3	2
12	*	鎌田 晃輔	3	1	0	0	4	2	0
13		小山 純	4	0	2	0	0	5	0
14	*	小野寺 翔	17	0	7	3	2	6	1
Coach		砂明利 明仁					0		
TOTAL			77	2	27	17	18	50	11

Timeout (経過時間)	1Q・2Q		3Q・4Q			OT1	OT2
	13:21	19:14	23:08	33:37	36:05	-	-

Timeout (経過時間)	1Q・2Q		3Q・4Q			OT1	OT2
	05:47	-	-	-	-	-	-

\*:スターター (C):キャプテン PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル R:リバウンド A:アシスト



3回戦 千葉ゾーンディフェンス、北海道マンツーマンディフェンスで試合が始まる。両チームとも出だしペースがつかめず2分間ノーゴール。千葉#7のシュートから動き始めると#7が連続シュート、#14の3得点で0-7千葉がリードする。5分間ノーゴールの北海道は#6のシュートから4連続シュートが決まり一気に逆転し8-7とする。その後相手のゾーンディフェンスのギャップをうまくついて得点を重ね北海道が18-13とリードして1Q終了。

2Qに入ると、千葉はディフェンスをハーフコートマンツーマンに変えてトラップを仕掛け、相手のミスから#14がレイアップシュートを決めると、#7、#10がバスケットカウント1スローも決め、23-26と逆転に成功する。4分間シュートの決まらない北海道は#7が2本の3Pを決め再逆転。対する千葉は#7のフリースローと#14のシュートで29-29の同点に追いつき前半を終了した。

後半に入ると、北海道は#5、#13の3Pで6点リードする。しかし、千葉はセンター陣#7、#14がゴール下を支配し俄然千葉が流れをつかんだ。相手がノーゴールと苦しむ間に、千葉は#6がバスケットカウント1スロー、3Pを含め、10得点の活躍で39-63と大きくリードする。北海道は、4分間ノーゴールの後も得点が思うように伸びない。

4Qでは、千葉は控えの選手を起用する余裕を見せ、ベンチメンバーの活躍で57-77と快勝し準々決勝に駒を進めた。北海道もプレスディフェンスを駆使して巻き返しを図るも、3Qでの失点が響き惜しくも敗退した。

記載責任者 川崎 恵子 (所属) 岐阜県バスケットボール協会